令和5年度　特養事業報告　（期間:令和　5 年　4 月 ～ 令和　6 年　3 月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・地域交流の充実を図る。	・野瀬自治会の地域清掃や夏祭りに参加する。	参加回数	年3回	年2回	・地域の清掃に2回（6月・10月）参加した。又夏祭りは新型コロナウイルス感染予防のため縮小や中止になった。
	・地域への協力・広報活動。	・地域に出向いて講演活動を開催する。	講師派遣回数	年2回程度	未達成	・施設内でのコロナ発生（4回）があったため講師を派遣することができなかった。
	・災害時における福祉避難所としての備蓄食品の設置。	・備蓄食品の見直し、購入に伴い職員、地域避難民の分も併せて検討し、購入する。	献立・マニュアル作成	随時	未達成	・年度内に備蓄食を設置する予定ではあったが達成できなかった。今後はBCP策定に伴い設置に向けて進めていく。
	・実習生の受け入れ。	・看護学生、高校・中学生の実習生受け入れの協力をする。		年間実習の都度	達成	・たつの北高校（4名）、看護学生（7班）、中学生のトライやる（5名）の実習を行った。
財務の視点	・加算の取得をする。 （栄養マネジメント強化、機能訓練等の加算）	・アセスメントシート・スクリーニング・ケア計画・チェックシート等作成しLIFEへデーターの提出をする。		95%	栄養　100% 機能訓練 93.9%　（年間平均値）	・栄養関係の加算についてはほぼ目標通り達成することができた。 ・入退所者が多くあり、コロナ等のまん延や入退院の増加があり、計画作成や身体機能の評価ができなく制度上の取得条件にあてはまらないことが多かった。
	・目標稼働率の維持・向上。	・退所後の空床期間の減少や入院時のショート空床利用日数を増やし、退所後に迅速に入所に繋げられるように常に入所候補者を整理しておく。 ・入所候補者を増やすために病院と密に連携を図り、空床が出た際にはスムーズに案内できるようにする。 ・ショートに関しては各事業所と密に連携を図り、空室が出た際にはスムーズに案内できるようにする。	特養・ショートの稼働率の向上	特養　94% ショート　98%	特養　85% ショート　110%	・前年に続き、職員、利用者様が新型コロナウイルスに罹患し、ユニットの閉鎖や看護師がコロナの対応に忙しくその時期には入所を進めることができなかった。 ・病院と密に連携を図っていたので前年度より入居者数は増えたがそれ以上に退居者が多く、入居手続きが間に合わなかったまた入院延日数も増加し稼働率に影響があった。 ・ショートに関しては入院中の空床を積極的に利用し、空床がでた場合には各事業所に空き状況を伝え、多くの方に利用していただけた。
	・食材費、消耗費などのコストコントロールをする。	・定期的な価格調査や業者との相見積もり等細目に情報収集を図る。	給食材料費		100%	・食材費に関しては、総体的に未だ高騰し続けており、安定する兆しは見られない。業者から値上げの情報を受けた時、すぐに他業者に相見積もりを取り比較することで安価な食材、商材を仕入れることができた。
利用者・家族の視点	・見守りカメラ設置の検討。	・利用者の尊厳等や家族の意向等、設置には十分に検討をし、設置に向けて進めていく。		随時		・各ユニットのリビングに3ヶ所、新棟のユニット各1ヶ所に設置できた。また利用者の部屋に3ヶ所設置できた。（ご家族の承諾済）このことによって利用者の事故検証に大きく役立っている。
	・行事・イベント等の実施。	・新型コロナウイルスにより外出や行事が行えないので、施設内で出来る季節にちなんだ行事を行う。 （餅つき、節分、スイカ割り、七夕まつり、クリスマス、花火等）	季節ごと		達成	・施設全体での行事を開催することはできなかったが、各ユニットで工夫をして行っていた、また餅つきやスイカ割り等は各ユニットからの利用者が参加できた。
業務プロセスの視点	・新人職員への教育・指導。	・教育・指導マニュアル等を作成し、年数に応じたステップアップが図れるような教育体制を整える。	教育・指導マニュアル等	年度内	50%	・厨房に関しては業務マニュアル（栄養士）の作成は完成したが調理師（員）に関してはスキルアップのマニュアルが未完成である。また、介護職員の業務マニュアルは以前より作成しているが指導ができていない。
	・ipod、タブレット等を活用し効率を図る。	・ipod、タブレットを医務、相談員、ケアマネ等に使用してもらう。		100%	100%	・タブレットでの活用で、嘱託医、医務、生活相談員、ケアマネとの情報共有ができた。また、口腔ケア（歯科衛生士）の情報も共有できた。
人材育成の視点	・内部研修の充実。	・ユニットリーダーが中心となり、重要研修を含め、毎月研修を実施する。	・実地日数	・月1回	・達成	・コロナウイルスのまん延や感染症などがあったが、年間研修計画通りに実施することができた。また、専門職等が講師となってユニット会議内や回覧研修を実施した。
	・サービス品質の管理、向上。	・担当者会議でケアプランを基に、状態やケアの検討をする。　・ケア実施のユニットとのケアの確認、現場の不適切なケアなどを未然に防げるように助言をする。		・随時	・達成	・担当者会議をすることによって利用者の状態、ケアを共有することができた（欠席者からは照会という形で、書面で参加する）。 ・個別のケア実施表を作成し、ユニットでの結果を記録し、ケアが適切であるか確認・見直し、助言した。
	・思いを話せる職場づくり。	・年2回職員の個人面談をする。	・面談回数	1人2回/年	・未達成	・コロナウイルスのまん延や感染症などがあったが、話しやすい環境を作りいつでも何かあれば個人的に連絡を受け話ができるようにした。（年間に1人の2回はできなかった）

令和5年度　グループホーム野瀬　事業報告　（期間:令和 5年　4月 ～ 令和　6年　3月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	地域行事、地域活動への参加	野瀬地区の行事、地域活動への参加	行事参加回数	全行事参加	一部達成	納涼祭やとんどなどの地域活動への参加はできなかったが、8月と12月のふれあい昼食会、草刈りには参加出来た。
	新型コロナウイルス感染拡大防止や自然災害（台風や豪雨、地震など）時には安全性を第一に地域の方と協力する	運営推進会議の開催		会議での確認 情報の公開	達成	運営推進会議で、法人の感染症状況について報告ができた。
収支の視点	転倒、急変に備えられる体制を整え、入院などでの空床を避ける。	コロナウイルスの感染予防、転倒への注意	稼働率	96%	85%	感染予防に努めてはいたが集団感染が発生し、利用者様9名と職員4名が感染した。幸い全員軽症であった為、入院等により稼働率に影響はなかった。 状態の悪化等により退所になった事で空室ができたが、次の入居が決まらず稼働率の減少を改善する事が出来なかった。また、居室が一室水漏れによる改修の為、2カ月程使用できなかった事も影響した。
	居宅介護支援事業所との連絡	幹部会での情報共有	適宜		達成	幹部会での法人居宅事業所との相談、適宜他事業所と連絡を行うことができた。
利用者の視点	感染症予防。家族への情報提供と、面会の体制整備、安心して預けられる情報開示を行う。	職員、利用者の感染防止意識 面会の方法、広報誌の活用	利用者、家族の声	クラスターを 発生させない	達成できず	1月にコロナウイルスの集団感染が発生した。感染状況や状態の報告を都度家族様に連絡し、安心して頂けるように努める事が出来た。
				毎月の広報	達成	
	転倒などの事故防止	毎月のユニット会議でアセスメントを行う	事故報告、ヒヤリハット回数	転倒事故なし	達成できず	ユニット会議でアセスメントは行っているが、転倒事故は発生した。
	行事や棲家としての穏やかな生活の提供	年間行事計画の作成。玄関先の花壇の手入れを行う。	利用者の声	利用者の満足度	達成	年間行事計画に沿って行事を実施する事が出来た。また、花壇の手入れを行う事で利用者様も季節の花を楽しまれていた。
業務プロセスの視点	ユニット間の連携	双方のユニットをカバーできる体制づくり。また、双方のユニットを現場サイドで統括できる主任的職員の育成配置。計画作成担当者の役割の明確化。現場業務の介護リーダーへの権限移譲。	利用者、職員の声		一部達成	ユニット間での協力体制はある程度取れている状況にある。職種、役職の権限分担に関しては、適正な範囲での業務の再編は進めており、定着しつつある。
	職種、役職の権限分担				一部達成	
	厨房での昼食作成、もしくは外注	冷凍食品や調理済み食品を献立する。厨房部門との会議の機会をもてるようにする。	検討		一部達成	厨房での昼食作成は、検討せず。冷凍食品や調理済み食品の活用を進め、業務の軽減を行っている。
学習と成長の視点	知識、技術の向上	法定研修を計画的にユニット会議で実施できるよう計画。			達成	予定通りとはいかなかったが随時研修を行う事ができた。
	近年取り沙汰される、虐待などの防止	管理者、計画作成担当者、リーダーなどの役職者で特に注意できるように会議などで必ず議題とする。			達成	ユニット会議内で都度虐待や身体拘束について伝える事はできた。

令和5年度 グループホームなばの 事業報告 （期間:令和 5 年 4 月 ～ 令和 6 年 3 月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	地域との交流の機会を持つ。	地域の行事「なばのふれ愛」「とんど」などに積極的に参加する。	地域住民	数回	参加できた	地域の行事、なばのふれ愛、とんどなどにはマスクをして積極的に参加できた。
		その他の行事の把握を推進会議で地区代表の方に尋ねる。				
		地域の保育所、小学校との交流を持つ。	地域の学校、施設、保育所	年1回以上	出来ていない	今年度は出来ていない。
	オレンジカフェを開催する。	年間4回開催（4月、6月、8月、10月）	参加人数	1回5名	出来ていない	オレンジカフェ開催は、新型コロナウィルス感染症のため出来なかった。今後いつ開催できるかは分からない。
		居宅、地域包括にチラシを配布する。				
収支の視点	稼働率の安定を図る。	体操、散歩を通じて筋力低下の防止と転倒の予防をする。	稼働率	95%	91%	コロナで一時的に中止にした以外は口腔ケアは、継続して行えた。口腔ケア指導を受けることにより、予防効果は上がっている。体操、散歩等を通じて下肢筋力の低下防止に努めるも、転倒による骨折入院が多く、稼働率の低下を招き目標値は達成できていない。嚥下体操は確実に実施出来た。
		口腔ケア、嚥下体操を通じて肺炎を予防 体調管理の徹底	回数	毎食前	継続して行えた	
	待機者の確保をする。	GH入所申し込み者の追跡調査をする。	待機者人数	年間新しく5名	確保出来ていない	相生市の介護保険を利用する人口に対して、市内のGH、その他施設の数が多く、待機者の確保が大変難しくなっている。空床が出来ると、市内居宅事業所等にも連絡をしている。病院からの依頼も受けているが、キャンセルもあった。空床が出来た時、入院者が出た時は、人員配置を少なくして対応した。
	経費削減を図る。	3ヶ月毎の光熱費を確認し削減に努める。	光熱費	前年比	大きく変化なし	1日の内での洗濯回数を少なくし、乾燥機の使用は出来るだけ控え、エアコンを利用して乾燥させ、光熱費の削減に努めた。
利用者の視点	利用者のQOLの維持向上	個人的に買い物外出をする。利用者の気分転換と下肢筋力の低下防止を図る。	実施回数	週2回	実施出来ている	感染防止のため、人込みには行かないようにするも、マスク等をして積極的に外出が出来た。ドライブに出かける回数も増やし、人がいない場所では、車から降りたり、散歩等に出かけることができた。施設内での行事も積極的に行い、脳トレや塗り絵などを通して、気分転換や脳の活性化を図ることができた。家事仕事（掃除、食器拭き等）をすることで、役割を持っての生活も継続出来た。
		調理の補助、洗い物、洗濯物干しを積極的にしていただく。	実施回数	毎日	実施出来ている	
	運営推進会議への家族の出席の継続	案内状の送付と口頭にて依頼する。	出席回数	毎回	出席出来ている	毎回出席して下さっていた方が、8月からGHに在籍されなくなりそれ以降は家族様の出席はしていただいていない。
	運営推進会議への利用者の出席	短時間でも利用者が参加出来るようにする。	出席回数	毎回	実施出来ていない	利用者の出席は、コロナ感染防止のため、出席はかなわなかった。
業務プロセスの視点	緊急時の対応の習得	緊急時対応についての研修を実施する 看護師より指導を受ける。	実施回数	年2回	実施出来た	法定研修として研修を実施した。
	有給休暇を確実に取得する。	有休取得計画表、管理表を作成する。	有休取得日数	年間5日以上取得	取得出来た	計画的に取得できた。空床、入院者が出来たことで、配置人数を減らして有休取得出来た。令和5年度は職員の体調不良による有休が多く、人により取得日数に差が出た。
	新型コロナウイルス感染対策の徹底	消毒、換気、マスク、手洗い、検温等の徹底	実施回数	毎日	実施出来た	感染対策の実施はするも、令和5年10月に1ユニットで、新型コロナウイルスが発生した。
	各マニュアルの見直しと再確認をする。	各委員におけるマニュアルの見直しと確認を行う。	実施回数	年間2回	実施出来た	年間2回6ヶ月ごとのマニュアルの見直し、周知徹底を行った。
	感染症の（インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス）のマニュアルに新型コロナのマニュアルを追加する。	対応マニュアルを年1回見直し、感染対策を徹底する。	実施回数	年間1回	実施出来た	新型コロナウイルス感染症マニュアルを作成した。
人材育成の視点	認知症についての理解とケアレベルの向上	認知症に関する研修を行う。	実施回数	年3回	実施出来た	定期的に実施出来ている。
	GHの法定研修を確実に行う。	法定研修の年間研修計画を立てる。	実施回数	毎月	実施出来た	法定研修は全て行った。資料での回覧研修も随時行った。
	リーダー候補の育成	外部研修への参加（認知症実践者研修）	実施回数	年1回	参加出来ず	令和5年度は1名はリモートで参加していたが、体調不良による入院で途中で研修中止となった。もう1名は最後まで研修を受けることが出来た。

令和 5年度デイサービスセンター 事業報告　（期間:令和 5 年 4 月 ～ 令和 6 年 3 月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・地域のサロンに参加する。	・サロンで体操やレクの提供で地域との交流を深める。 ・今まで参加した事のない職員にも参加を促し、地域活動の理解を深める。	実施回数	年3回	年3回	・野瀬地区のふれあい昼食会に参加した。6月認知症について、10月秋の作品作り、、2月防災についてを話し合いを行った。 ・参加した事が無い職員を同行する予定だったが、現場を途中で抜ける事が難しかったので、同行できなかった。6月と10月は相看実習生と同行し、地域活動の様子を伝えることができた。
	・災害時について地域の方と情報を共有する。	・災害時の避難手段等の勉強会を開催する。 ・災害時の避難手段等を話し合う。	実施回数	年1回	年1回	・2月のふれあい昼食会時に、災害時について話し合い、災害時の行動、早めの避難、特養が避難場所となっている事を伝えた。
収支の視点	・稼働率の維持。	・毎日の稼働状況の把握、キャンセル対応休みの振替を促す。 ・居宅事業所を訪問し、空き状況の連絡、利用者様の状況報告を行う。	稼働率	一般型 80% 認知型 60%	一般型 71.7% 認知型 60.2%	・新規利用者受け入れ数:54名（内継続者32名、特養1名、GH3名、他施設4名、入院6名、本人希望7名、ご逝去1名）新規依頼は多かった。介護度が高い方や、利用回数が多い方の解約が前期に続いた。それに対し要支援者の依頼が増え週1からの利用となっているのと、新規利用の定着が難しかった為、稼働が伸びなかった。 ・解約者 41名（特養5名、GH 5名、入院7名、他施設11名、本人希望8名、ご逝去5名） 入居率 24%（昨年 16%）
	・経費の無駄を省く。	・光熱費や雑費の節約を呼びかけ、使用量をチェックする。	回数	3か月に1回	年2回	・事務所や事業活動計算書で光熱費を確認し、高くなっていないか確認した。 ・例年なら1月からホールの床暖を点けていたが、今年は床暖を点けず、空調のみで過ごした。暖冬の影響や節約もあり、電気代が前年度より約800,000円削減できた。水道代も水漏れ修理により、約1,800,000円削減となった。
利用者の視点	・利用者様の心身機能の維持向上に努める。	・ポイント制により、リハビリを促す	人数	5人	5人以上	・毎日の職員からの促しにより、リハビリ意欲、自主性を高めることができた。またポイント還元に外出計画や特別な作品作りの参加を促し、達成感や次回への意欲に繋げる事が出来た。 ・ADLの評価がプラスとなり、6年度よりADL維持等加算Ⅰの取得に繋げる事ができた。
	・家族様に身体的状況、認知症の症状等報告を行う。	・利用時様子観察を行い、変化に気づき早期発見、悪化防止に努め、休みや入院で稼働が下がらないようにする。	人数	30人	30人以上	・患部の写真を家族様やケアマネに渡して早期の受診を伝えた事により早期発見に繋がった。
	・趣味、特技を生かし、利用者様の充実感を図る。	・利用者様個々の趣味、特技を把握し、個別レクを提供し、作品を掲示する事で達成感を持っていただく。	人数	20人	20人以上	・月担当の職員がレク、壁面、プレゼント、行事等を考え、充実感と楽しみを持って過ごしていただけるよう提供した。その様子を随時SNSであげた。 ・個々の特技を生かせるよう、手芸や塗り絵等の個別のレクを提供し、展示した。
	・感染予防を徹底する。	・感染委員会を設置し、感染防止の意識を高め、担当者が勉強会を行う。利用者様家族様への注意事項の案内をする。	回数	年2回	年2回	・6月疥癬、11月ノロウイルスについての勉強会を行った。 ・手洗い、消毒、マスク着用の呼びかけを徹底し感染予防に努めた。 ・コロナ5類に移行後、事業所独自の感染予防対策として注意喚起を利用者様と家族に行った。
業務プロセスの視点	・有休を取得する。	・業務の効率が上がっているか、検討分析する。	回数	年3回	年1回	・職員が急遽休みになった場合はなるべく、交代勤務をせず、その時の現場を減らした人数で対応した。有休5日以上取得した。
	・勤務1年未満の職員へのフォローと指導を行う。	・1年未満の職員に業務で分からないことや不安なことを聞く。	回数	月2回	月1回	・業務の流れの中で不安に思う事を訊ねていった。
学習と成長の視点	・今後のデイを見据えて、外部研修を受講する。	・WEB研修を申し込み、なるべく多くの職員が受けれるようにする。	回数	年1回	年2回	・法人各部署の事を知り、関心をもってもらおうと、内部研修を行い、特養とヘルパーのお仕事説明を行った。勤務時間を増やしたい職員に特養を兼務で就業してもらった。
	・居宅、ヘルパー部門と合同研修会を開催し、交流を図る。	・交通安全や感染予防、自宅で出来る介護予防体操等の勉強会を行う。	回数	年3回	年1回	・11月にノロウイルスの勉強会を行った。2月頃に外部講師による口腔ケアの研修会を依頼する予定をしていたが、コロナ感染により、令和6年5月に開催予定となった。
	・個人面談を行う。	・個人面談を行い、業務、職場環境の個々の意見を聞く。	回数	年2回	年1回	・随時依頼時に行った。

令和5年度　ヘルパーステーション事業報告　（期間:令和　5 年　4 月 ～ 令和　6 年　3 月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・市内クリーン作戦	・居宅と合同で年2回のゴミ拾い実施。	実施回数	年2回	年2回	・4月5日、10月5日　マックスバリュー、ペーロン城から関西電力辺りまでのゴミ拾い実施。 ・赤色のこすもす倶楽部の名前入りのジャンパー着用し、地域の方の目に留まるように実施。
収支の視点	・人材の確保	・登録ヘルパーの高齢化(平均年齢67.9歳)に伴い、病気等による長期休暇や退職を防ぐよう体調等を考慮しシフトの調整を行う。	ヘルパー人数	ヘルパー10名	ヘルパー9名	・新規契約22件　　終了者17件 ・平均介護度　4月1.05　→　3月1.05 ・登録ヘルパー4月10名平均年齢65.2歳。75歳のヘルパー1名退職、1名今夏免許証返納予定。10名中70代が3名、60代4名と高齢化に歯止めがかからない。 ・毎月の実績配布の際に居宅のケアマネに営業をかけているがヘルパーの体調不良、年齢的に仕事量を調整するなどが重なり、思うようには新規利用者の受け入れが難しく、依頼のあった仕事を思うように行け入れることができなかった。また、新規利用者は6割が支援。年度内に終了するなど、利用の定着に課題あり。また重度の利用者は施設入所や逝去で終了が立て続けにあり減収となる。
	・訪問時間の増加を図る	・各居宅事業所に営業活動を行う。	訪問時間	毎月430時間	月平均397時間	
	・ヘルパーの確保					
利用者の視点	・住み慣れた自宅や地域で安心した生活が送れるように支援する	・ヘルパーの訪問時に利用者の体調や心理面の変化を察知できるように気づきの目を養うためミーティングにて研修を行う。	訪問時間	毎月430時間	月平均397時間	・利用者の日々の健康状態と精神状態を訪問時に把握し担当ヘルパー全員で共有できるよう実施した。 ・ヘルパー間でlineグループを使い情報の共有に努めた。 ・利用者の状態をこまめにケアマネに報告を実施。 ・担当者会議に参加し、他の事業者や家族やケアマネに会い利用者の情報を共有することができた。
		・各事業所や地域との連携を図ることで、利用者が自宅で過ごしやすい環境を考える。				
		・ヘルパー間の情報共有を図る。				
業務プロセスの視点	・自立した日常生活の支援を行う	総合事業:利用者の生活機能の維持、向上を図り卒業も視野に入れ支援する。 介護事業:自立支援の観点から利用者の要介護状態の軽減を図るとともにヘルパーの医療的知識を深める。				・今年度、総合事業を卒業する利用者2名。
	総合事業:自立し卒業を目指したケアを目指す		訪問時間	毎月430時間	月平均397時間	
	介護事業:重度の利用者は施設サービスに移行することが多いため重度化を防ぐ					
	・感染予防	・感染症対策マニュアルの見直し、感染症予防の研修会を開催し感染予防に努める。				・主にコロナ感染症対策等感染症に関しミーティングで研修会を実施。
	・訪問忘れゼロ	・スケジュールの徹底管理。	0件	0件	1件	・訪問メールのチェックを徹底したが訪問忘れ1件。
学習と成長の視点	・ヘルパー研修の充実を図り、ヘルパーの専門性と実践力の向上を図る	・コロナ感染症等感染症対策に力を入れる。	実施回数	年1回	年1回	・コロナ感染症対策や感染症対策に一環としてミーテイングで研修会を実施。 ・今年度は、県、西播磨のヘルパー協議会主催の研修会への出席はzoom参加も含め回数が年間5回参加できた。
	・一人での訪問となるため、ヘルパーの孤立を防ぎ、安定して長く勤務できるように支援する	・「質の高いサービス提供」を目標にヘルパーのスキルアップのため、研修会の充実を図る。 ・外部研修への参加。	参加回数	月1回	月1回	
	・デイとの合同研修を開催し、職員間の交流を図る					
	・年休取得	・有給休暇の取得を図る。	実施回数	年休取得回数	常勤者年間5日以上取得	・登録ヘルパー、常勤者全員年間5日取得できた。

令和5年度 居宅介護支援事業所(在宅介護支援センター) 事業報告 (期間:令和 5年 4 月 ～ 令和 6 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	市内クリーン作戦	市内交通量の多い歩道のゴミ拾い	実施回数	年2回	年2回(4・10月)	・4/5.10/5に実施(ペーロン城付近…ポート公園前～工和橋北の間)クリーン作戦を行う際はこすもすジャンパーを着用。歩道を歩く方や自転車のの方から「ごくろうさま」と労いの言葉を頂いた。地域貢献を通じて、こすもす倶楽部の活動について認知されるように今後も継続する。
	サロンや地域主催の行事に参加する。	サロンや地域行事へ参加し、顔の見える関係づくりを継続	実施回数	年4回程度	参加なし	・コロナ禍後、地域の活動の担当者が変更になり繋がりがなくなっており、参加依頼なし。認知症サポート養成講座の参加依頼もなし。令和6年度は、担当者を確認し繋がりの回復を目指し、依頼があれば積極的に参加する。
		ケアマネ業務に支障が無い範囲での調整	実施回数	(事業開発の計画)	参加なし	
収支の視点	特定事業所加算の算定の継続	会議の定期開催(毎週)、24時間の連絡体制、計画な研修、困難事例への対応、担当件数の遵守、実習受け入れ等の実施	加算算定	毎月	加算算定なし	・管理者交代にあたり、算定要綱を満たしていない。
	その他算定可能な加算を漏れなく請求する。	給付管理業務の際に、取りこぼしのないよう算定する(初回加算、入院時情報提供書など)。	加算算定	毎月	毎月算定	・入退院時に情報提供を実施。退院前カンファレンスへ出席した場合に算定可能なため、給付管理業務時にチェックしている。
利用者・家族の視点	ライフステージに応じたサービスの提案	・給付管理、実績内容の確認 ・集中減算の確認(2月・8月)	毎月の利用状況	前月比	適宜調整 出来ている	・毎月10日締めで給付管理状況をまとめ、自法人サービスの利用状況を確認している。 ・半年に1回(3月～8月、9月～2月)集中減算の確認と書類保管
	法人内のサービスを知ってもらう。	毎月のモニタリング訪問時に法人内サービスを紹介(チラシや新聞等ある場合は持参し紹介する)	毎月1回	毎月1回	毎月1回	・毎月の訪問時、必要に応じて法人内サービスを随時紹介・説明を行った。特養・グループホームの部屋の空き状況もお伝えしている。
業務プロセスの視点	ケアマネ一人当たり担当件数の維持	ケアマネ一人当たりの担当件数の維持	担当件数	30件	30件未満で推移	・専従2名・兼務1名の体制の為、事業所で持てる担当件数が減少。新規依頼も少なく年間通して、利用者の件数も減っている。
	定期の会議を開催する。	週1回事業所内での実施(事例検討・ケアプランのチェック、医療との連携。介護保険制度など)	実施回数	週1回	未実施	・特定事業所加算の要件では週1回定期会議の開催が必要であったが、特定事業所加算の算定が出来ない為実施していない。困難対応ケースも増えているため、担当ケアマネが一人で悩みを抱え込まない様、事業所内で相談し早期に解決できるよう対処している。
	兵庫県介護支援専門員協会 相生支部役員会への参加	月1回開催される役員会に出席し(参集・リモート)、定例会での協議内容や研修内容を検討する。最新の介護保険等についての動向を聴取する。	実施回数	毎月1回	毎月参加	・毎月役員会に参加している。地域・医療・研修の最新情報を知り、事業所内で情報を共有している。
人材育成の視点	個人の資質向上	研修計画に基づき、必要な研修の参加	研修計画に基づく	研修計画に基づく	平均 月1～2回参加	・研修計画に基づきケアマネ業務に必要な研修に随時参加。今年度も、ZOOM等を活用したオンライン研修が多かった。ケアマネ業務をおこなうにあたり、幅広い知識が必要であるため、オンラインで行われるいろいろな分野の研修に参加する事で、利用者様にとって最適なケアマネジメントが提供できるよう努めている。また、全員参加が難しい研修については、参加した職員が研修後に情報を伝達している。
	新規採用者に対して、居宅の仕事や役割を知ってもらう。	新人研修、中途採用者研修の参加	実施回数	年2回	なし	
	介護支援専門員実務研修実習の受け入れ	介護支援専門員実務研修実習生の受け入れ	実施回数	実施回数	なし	